

第4回 世界選手権 オーストリア大会の記者発表会が行われました



7月4日（月）オーストリア出発を2日後に控えた日本代表チームが、岸記念体育会館に於いて記者発表会を行いました。35団体50名を超える報道関係者にお越しいただき、とても盛況な発表会となりました。

「日本トップリーグ連携機構 代表理事会長 森 喜朗」様、および「独立行政法人 日本スポーツ振興センター 理事長 小野清子」様から「激励メッセージ」を頂き、この発表会で披露されました。

記者発表会で、LB 相馬選手（パナソニック電工）が体調不良の為 DB 藤田篤（富士通）に交代する事が発表されました。新メンバー表はこちらをご覧ください。

[メンバー表はこちら](#)

冒頭、浅田理事長は

4年前の7月15日、初出場のアメリカと延長戦の上敗れた事を昨日の事に思い出さす。その雪辱をすべく2009ノートルダムジャパンボウル、2010ジャーマンジャパンボウル、と我々は3年間がかり準備をしてきた。何と少しでも決勝でアメリカを破って優勝杯を持ちかえりたい。

7月16日には日本体育協会100周年の記念行事があると聞いている、そのお祝いの席に是非吉報を届けたい、と挨拶。





続いて日本代表チーム、森ヘッドコーチからは

まず冒頭、前述の通り選手の体調不良により、1名に変更が出た事が報告されました。

続いて大会に関してコメントされました。アメリカ、カナダは言わずと知れた強豪国、その2強に留まらずサイズに恵まれた欧州勢も着実に力を付けており油断出来る相手はひとつもない。日本のアドバンテージはフットボールに対する理解力の深さとチームワーク、それを生かせるような試合運びをしたい。一番大事なのは初戦のオーストリア戦、ここで勝つ事、これが何よりも重要だと考えている。皆さんにいいご報告が出来るように頑張ります、と述べた。

その後は、出席した古庄主将ら選手9名からそれぞれのコメントがありました、ご紹介いたします。



主将 LB 古庄直樹

何が悔しかったか、4年前アメリカに負けたことに尽きる。目標だったアメリカとの対戦が実現し、倒すチャンスが目の前にあった、しかしそれが果たせなかった、それが何よりも悔しい。今大会で、何としても自分の中にあるこの悔しさを晴らしたい。アメリカと優勝戦で当たる、そしてアメリカを倒す。

副将 DL 山中正喜

筋肉痛が2日後にくる年齢、中一日で試合を経験したことは無い、そういった意味では自分自身への挑戦でもある。

前回のアメリカ戦。相手が何をするのか判っていてもそれが止められなかった、悔しかった。同じような後悔はしたくない、この大会ではもっと激しく。自分に厳しく臨みたい。

リスクを冒してでも止めに行きます。



副将 WR 長谷川昌泳

前の大会でのファーストプレー、日本に大きなモメンタムを引き寄せるビッグプレーがインターセプトされ、逆にチームをピンチにしまった。今回も同じように、ビッグプレーのチャンスは必ずある筈、

何としてもチャンスをものにしたい。

副将 QB 東野 稔

自分自身 QB を 25 年間やってきている。37 歳にして初の日本代表に選ばれたことがとても嬉しく思う。アジア選手権の準備を含め、このチームはかなり練習を重ねており、とてもいいチームワークが出来ている。今回のスケジュールは自分でも経験の無いタイトスケジュール。自分にどれだけできるか、チームに貢献したい。



DL 脇坂康生

いつも歳の事を言われるが大丈夫、自分自身は今大会の為に準備をしてきた、コンディションも問題ない。自分のフットボール人生の集大成として、ポロボロになっても悔いはない。チームの為に貢献したい。

WR 木下典明

4 年前は NFL ヨーロッパに居て日本代表に参加できなかった。今まで外国人の中に一人で参加してきた、チームの 10 人が外国人だった。11 人の日本人と外国人相手に戦うのは初めてで、少し不安はあるがとても楽しみ。

今まで出会った事もないような、とてつもない相手と対峙して、心が折れそうになる事がある。今大会ではそんな場面があるかもしれない、そんな時どこまでできるか。そこからが本当の勝負。自分の経験をハドルの中でチームメイトに伝えた。



RB 末吉智一

学生の中から一人選ばれ、どちらかと言うと先輩の後ろで、というような考えを持っていた。しかし昨日伊藤コーチから初戦からの RB ローテーション入りを告げられた。代表選手の一員としての責任を強く感じた。国内の学生ではフィジカル的な不安を感じた事はなかったが、はるかに大きな外国人を相手にして恐怖心を克服できるかが課題。臆するどころなく戦い、自分に自信をつけて帰りたい。

WR 萩山竜馬

初めて東北の大学から日本代表に選ばれた事をとてうれしく思う。自分が頑張る事で被災地である東北の方が少しでも元気になってくれたら嬉しく思う。「漫然とやっていたはいけない、1プレー、1プレー狙いを定めて取り組め」と古庄さんからいつも言われ、自覚できるようになってきた。サイズ、フィジカルともに優れた外国人に対してどこまでそれを実践できるか、自分が通用するのか、全力で取り組みたい。



OL 小林祐太郎

福島出身の自分は震災の時には福島に居た。最近になってようやく福島も落ち着いてきたが、まだまだ復興には程遠い状況。自分の頑張りが福島の方々に伝わるように頑張りたい。

